

建設地周辺の浸水実績と浸水予測。

これから暮らす生活区域の
水害のリスクや対策について事前に知ることは大切です。

TOPICS 甚大な被害をもたらした伊勢湾台風の時でも、浸水を逃れることができた立地。



昭和34年の9月26日に潮岬に上陸し、紀伊半島から東海地方を中心に、ほぼ全国にわたって甚大な被害をもたらした伊勢湾台風。その巨大な台風発生時でも、中洲エリアの伏屋エリアだけが、伊勢湾台風の被害を免れています。

出典:愛知県ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/shinsuizisseki.html>

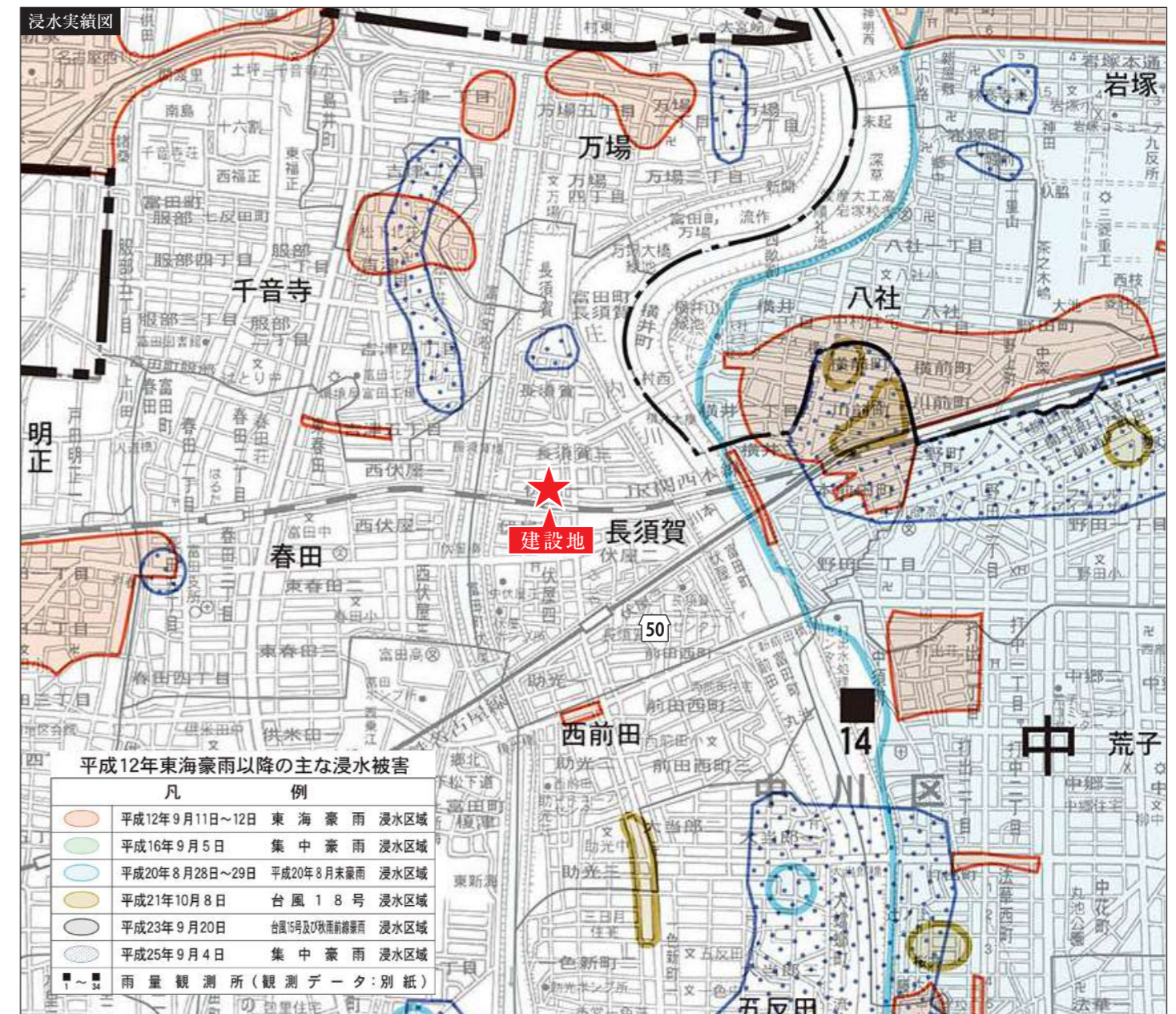
建設地周辺は、
2000年の東海豪雨時の
被害を逃れています。

平成12年に発生した東海豪雨は、台風14号に刺激された秋雨前線の活発化が原因とされています。9月11日～12日の豪雨で発生した総雨量は年間降水量の3分の1にあたる567mmを記録。名古屋市においては市内の約37%が浸水するほどの大きな被害となりました。この他にも堤防の決壊や河川の氾濫が相次いだことで一時的に都市機能が麻痺した地域もあり、伊勢湾台風と並ぶ激甚災害[※]として歴史に名を残しています。そのなかでも、**建設地周辺は被害を逃れることができました。(右記浸水実績図参照)**

※激甚災害…地震や台風などの自然災害の内、国からの援助や支援が必要と認められる被害をもたらした災害。

過去に浸水したかどうかを知ることができる「浸水実績図」。

名古屋市浸水実績図には、平成12年、平成16年、平成20年、平成21年、平成23年、平成25年の豪雨の浸水区域が記載されています。近年、全国各地で激甚な災害が毎年のように発生していることを受けて、平成27年に水防法が改定され、名古屋市が、想定し得る最大規模の内水氾濫による浸水想定区域図などを指定しました。それに伴い、名古屋市が指定した想定し得る最大規模の内水氾濫の浸水想定区域図などを基に、浸水範囲、浸水深、浸水継続時間及び避難場所等が掲載されています。※凡例内のマークのない地図のエリアは過去(H12年以降)に浸水履歴がない地域です。



出典:名古屋市ホームページ <https://www.city.nagoya.jp/ryokuseidoboku/page/000021585.html>

内水氾濫ハザードマップ

下水道等の排水施設の能力を超えた雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時等に、雨水が排水できなくなり浸水した場合に想定されるものです。



建設地の指定緊急避難場所は、「長須賀小学校」となります。自宅にとどまると、命を守れない場合など、被害が発生するおそれがあり、急いで避難することが必要な場合は、災害ごとに適した指定緊急避難場所に緊急避難します。その後、避難情報・気象警報の解除など、災害のおそれなくなったら、指定避難所に避難します。なお、指定緊急避難場所・指定避難所は、お住まいの行政区・学区にかかわらず、どなたでも最寄りの施設に避難することができます。

出典:名古屋市ホームページ <https://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000154015.html>